

新遠野市の主要課題は



小笠原 隆男 議員

【質問】新市における課題は山積している。特に厳しい人口減少に歯止めをかけるため交流人口をどうやって定住化につなげていこうとするのか。

【市長】相談窓口の一本化やふるさと市民制度の確立、「で・くらす遠野サポート市民会議」を推進母体として取り組む。平成22年度までに定住世帯は37世帯

の増加、ふるさと市民の人口は10,000人を目指す。

【質問】将来の子供たちによりよい教育環境を提供していくため、学校再編を進める必要があると思うが、その取り組み方針は。

【教育長】中学校再編は最重点課題として次世代を担う中学生の「学力・体力・心」のバランスの取れた「生きる力」を伸ばす教育環境の整備・実現に向け全力で取り組む。

【質問】低迷する林業を活性化し、美しい森林をしっかりと後世に引き継いでいくための方針は。

【市長】木工団地を核とした木材産業の振興を図ることにより林業を牽引するような活性化に繋げたい。

前期基本計画の取り組みは



菊池 邦夫 議員

【質問】人口減少のもとで、医療体制の充実はどうなっているのか。特に県立遠野病院はどうか。

【市長】遠野病院の常勤産婦人科医及び市内の医師確保対策に、医師確保担当職員を配置し、充実に向けた取り組みを行ってきたが、依然として厳しい状況にある。

【質問】子育て支援の一環として、「遠野型助産院ネットワーク」を確立することのことがだが、その内容は。また、提言した第三子から第二子への保育料免除措置の検討は、どう進められているのか。

【市長】岩手医科大学、県立中央病院等や市内の医療機関の理解と連携の下にネットワークを確立し、助産師による妊産婦の負担軽減、不安解消に役立てようとするものである。保育料は、旧遠野市と旧宮守村は違っており、統一を図る必要がある。「少子化対策・子育て支援総合プラン」の中で、第三子以降保育料免除を含め検討しており、来年度の当初予算までに結論づけたい。

冬季間の危機管理について



瀧澤 征幸 議員

【質問】遠野市の道路舗装率は、旧宮守村が70%以上だが、旧遠野市は40%にも満たない状況にある。上郷町羽場地区には41世帯あるが、その生活道は実に90%が未舗装となっている。特に冬季間、しばしば通行不能となり緊急事態が発生したときに身動きできなくなる世帯が14世帯もあり、危機管

理上非常に問題である。ライフライン確保は行政責任であり、早急に整備すべきではないか。

【市長】生活に密着した道路の緊急性や優先性を考慮し、順次整備を急ぎたい。国県道を管理する土木センターとの連携を強化し、新たな仕組みを構築したい。

【質問】市内には30代から40代の未婚者が約1,000人と想定されるが、人口減を食い止めるには、地域づくりを見直し、結いとりを復活させ、結婚の促進を行政自ら本腰をいれて行うべきではないのか。

【市長】この10月以降に新体制を構築し、来年度に向けた一定の方向性を導き出したい。本市の最重要課題の一つとして積極果敢に取り組みたい。

遠野病院病棟削減への対応は



小松 大成 議員

【質問】県立遠野病院の病棟削減は病棟の削減のみならず、医師や医療労働者の削減をも意味する。また、患者は現在でも長時間診療待ちの状態である。病棟削減問題に対し遠野市はどのように対応するのか。

【市長】現在の県立遠野病院は、1病棟休止となると70床減の151床となる。

現在の入院患者からすると約30人程度の患者が入院できなくなり、市民の不便や不安が増大する。現病棟の存続や医師確保を含めた地域医療体制の充実を県に働きかける。

【質問】介護保険制度の見直しで、施設利用の負担増が問題になっている。負担増により施設利用を断念せざるを得なくなる状況がある。施設利用を継続できる支援策は。

【市長】市独自の利用者負担の軽減を行っている。また、地域が家族いつまでも元気ネットワーク構想に基づいて地域密着型施設整備を計画的に進める。

【その他の質問項目】

障害者自立支援法施行による影響について